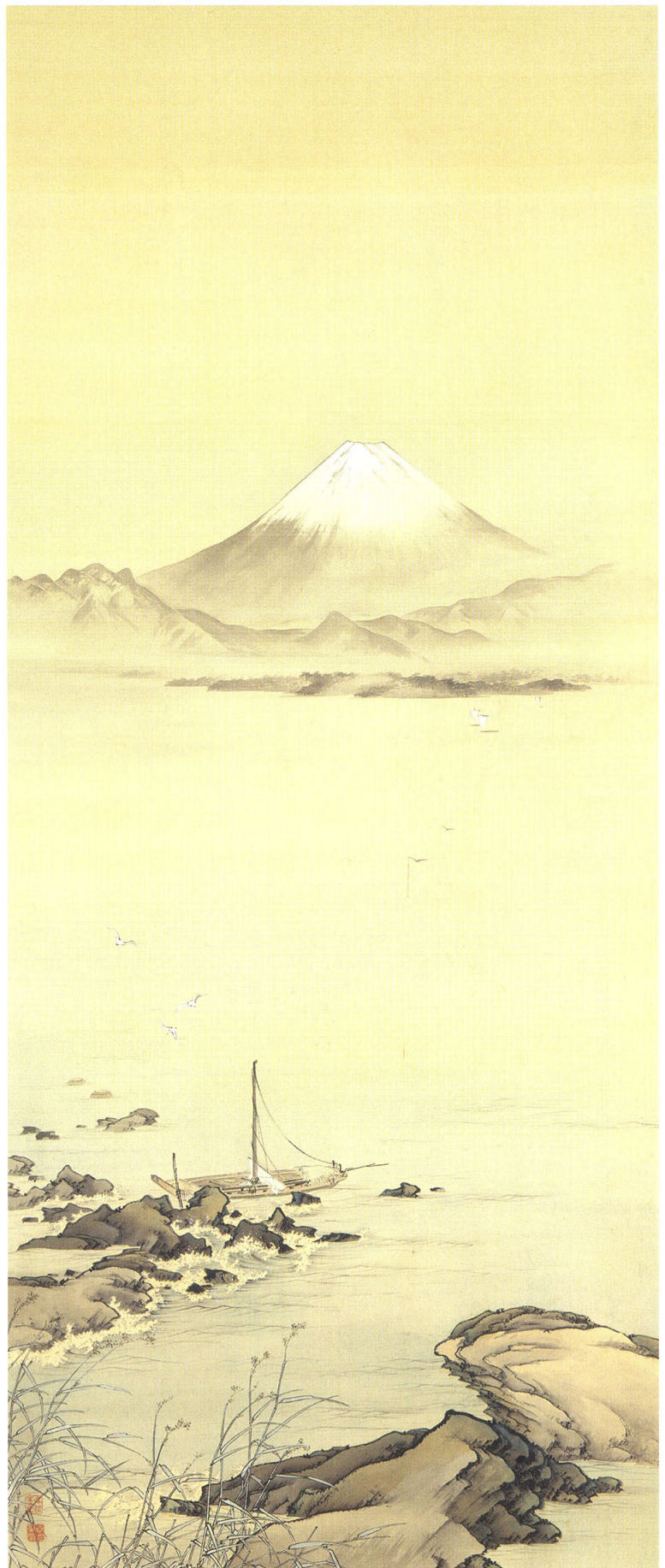


2 葉山之実景 村瀬玉田 一幅

絹本墨画淡彩 明治期
本紙一六五・四×六九・五



村瀬玉田（一八五二～一九一七）は、京都で四条派の村瀬雙石の門に入り、花鳥画を得意とした画家である。本図は葉山の海岸から望んだ富士を描いたもの。手前の岩から奥の富士へと見る者の視線をうながすように鳥や船を配置することで、縦長の画面を間延びして感じさせない巧みな構成となっている。前景の帆を畳んだ船は写実的に描かれ、富士の姿も三峰型ではなく自然

な形で描かれている。また手前の岩などは濃く明確な線で描かれ、逆に富士ははるか遠くにあることを示すように淡い墨調で描かれている。これは、橋本雅邦ら日本画の革新を目指した画家たちが多用した空気遠近法の技術である。旧派と言われる画家でも、決して時代の流れに逆らっていたわけではなく、彼らなりに新たな日本画を模索していたことがわかる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

富士 ―山を写し、山に想う―

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 46

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十年三月二十二日発行

© 2008 The Museum of the Imperial Collections